

第16課 理由（一）：によって・ものだから／もので・おかげだ／せいだ・あまり（の）・につき

第16課對應《新完全マスター N2》第1部「II 主観を含めて説明する（帶主観説明）」的第16課，主題是「～だから（理由）」的第一組。N3 已學過 ～から／～ので 表理由，以及 ～おかげで（多虧）／～せいで（都怪）這兩個基礎講法；本課把這些理由表達再延伸、再分工：表示客觀因果、常用於被動句的 ～によって、用來辯解或解釋的 ～ものだから／～もので／～もの、放在句末「是多虧／都怪」的 ～おかげだ／～せいだ、表示「太過...結果...」的 ～あまり／～あまりの～に，以及告示、公告體的 ～につき。

■ 今課目標

- 用 ～によって 表達「由於...（原因，多用於被動句、客觀敘述）」，並能用 ～による + 名詞 修飾名詞。
- 用 ～ものだから／～もので／～もの 表達「都是因為...」，作辯解、解釋理由（口語）。
- 用 ～おかげだ／～せいだ 放在句末，以「～のは～おかげだ／せいだ」表達「是多虧...／是都怪...」。
- 用 ～あまり／～あまりの～に 表達「由於太過...，結果（出現極端的結果）」。
- 用 ～につき 寫告示、公告（書面），表達「因為...」，並認得它另有「每...」之意。

一、～によって：由於...（客觀原因）

■ 把某事當原因，導出某個結果

～によって 表示「以...為原因，造成某個結果」，是較生硬、書面的講法。常用於被動句或客觀敘述（事故、變更、災害等），主語多為事物而非個人。注意：作「手段、方法」解時若是日常工具（電話、筆、電車等）個人使用的情境就不太自然，但像 ～による + 名詞 這種修飾名詞的形式則可以用。

■ 形式規則

名詞 + によって／名詞 + による + 名詞。多用於被動句、客觀敘述；原因多為事物。

■ 例句

1. 大雪によって、空港の便がすべて欠航になった。
→ 由於大雪，機場的班機全部停飛了。(被動／客觀敘述)
2. 制度が変わったことによって、手続きが大幅に簡単になった。
→ 由於制度改變，手續變得大為簡便。
3. この地域は地震による被害が特に大きかった。
→ 這個地區因地震造成的損失特別嚴重。(による＋名詞)
4. 合否は書面で通知します。メールによる問い合わせには応じかねます。
→ 錄取與否會以書面通知。恕不接受以電郵提出的查詢。(による＋名詞)

二、～ものだから・～もので・～もの：都是因為... (辯解)

■ 替自己解釋、辯解的理由

～ものだから／～もので／～もの 用來「就『～ので...』作一番解釋、辯解」，是口語的講法，多帶「不是我故意的、情有可原」的語感。後句不接命令或意向的句子。～もの 主要放在句末，特別是女性、小孩常用，語氣像在撒嬌、訴苦。～ものですから／～もので 後面的句子有時會省略。～ものだから／～もので／～もん 是更隨便的講法。

■ 形式規則

普通形（ナ形容詞だ→な・名詞だ→な）＋ものだから・もので；普通形＋もの（多置於句末）。口語；後句不接命令、意向。

■ 例句

1. 遅れてすみません。電車が止まっていたものですから。
→ 抱歉遲到了。都是因為電車停駛了。(後句省略)
2. このところ立て込んでいたもので、ご連絡が遅くなってしまいました。
→ 因為這陣子事情很多，與您聯絡晚了。
3. わたし、方向音痴なものだから、また道に迷ってしまったんです。
→ 因為我是個路痴，所以又迷路了。(ナ形容詞＋な)
4. もう少し待ってよ。まだ準備ができていないんだもの。
→ 再等我一下嘛。因為還沒準備好嘛。(もの 置於句末)

三、～おかげだ・～せいだ：是多虧...／是都怪...

■ 句末歸因：好結果歸功，壞結果歸咎

～おかげだ／～せいだ 放在句末，常以「～のは～おかげだ／せいだ」的形式，把某個結果歸到某個原因上。～おかげで 後面接好結果，表示「多虧、托...的福」；～せいで 後面接壞結果，表示「都怪...」。句末用 ～おかげだ／～せいだ 收尾，後句不接說話人的意向或命令。原因不確定時可說 ～せいか（也許是因為...）。

■ 形式規則

名詞-の・動詞／イ形容詞普通形（ナ形容詞だ→な）＋ おかげだ／せいだ。おかげ 接好結果，せいだ 接壞結果；常用「～のは～おかげだ／せいだ」。

■ 例句

1. 第一志望に合格できたのは、先生のご指導の**おかげです**。
→ 能考上第一志願，全是多虧老師的指導。（～のは～おかげだ）
2. 同僚が手伝ってくれた**おかげで**、締め切りに間に合った。
→ 多虧同事幫忙，才趕上了截止日期。
3. 朝寝坊した**せいで**、大事な会議に遅刻してしまった。
→ 都怪睡過頭，結果重要的會議遲到了。
4. 注文が増えないのは、宣伝が足りない**せいだ**。
→ 訂單沒有增加，是都怪宣傳不足。（～のは～せいだ）

四、～あまり・～あまりの～に：由於太過...，結果...

■ 太過某種狀態，導致極端的結果

～あまり 表示「因為太過...（程度過頭），結果出現了不尋常的結果」。前接表示程度、情緒的詞（緊張、悔しさ、心配 等），後句多為負面、極端的結果。也可用 ～あまりの＋名詞＋に 的形式（如「あまりの暑さに」太過炎熱），語感更強調那個程度本身。後句不接說話人的希望、意向或命令的句子。

■ 形式規則

名詞-の・動詞／イ形容詞普通形（肯定，ナ形容詞だ→な）＋ あまり；あまりの＋名詞＋に。前接表程度、情緒的詞；後接極端、多為負面的結果。

■ 例句

1. 発表の順番が近づいてきたとき、緊張のあまり、頭が真っ白になった。
→ 輪到我發表的順序快到時，由於太過緊張，腦袋一片空白。(名詞-の)
2. 合格の知らせを聞いて、うれしさのあまり、その場で泣き出してしまった。
→ 聽到合格的通知，由於太過高興，當場哭了出來。(名詞-の)
3. 早く仕上げようと焦ったあまり、かえってミスを増やしてしまった。
→ 由於太急著想完成，反而增加了失誤。(動詞普通形)
4. あまりの忙しさに、昼ご飯を食べるのも忘れていた。
→ 由於實在太忙，連吃午飯都忘了。(あまりの+名詞+に)

五、～につき：因為...（告示體）

■ 公告場合的「因為...」

～につき 用來「以『因為...的緣故，會變成某種狀態』公開告知」，是生硬的書面講法，多見於張貼的告示、公告或公文（休業、清掃中、改裝中等）。接表示當前狀況的名詞。另外，～につき 還有一個常見的意思是「每...」（如「一人につき」每人、「一個につき」每個），表示分攤、單位，要靠句子判斷是哪一個意思。

■ 形式規則

名詞 + につき。表理由時用於告示、公告、公文等書面場合；另有「每...（一人につき）」的單位用法。

■ 例句

1. 本日は改裝工事につき、終日休業させていただきます。
→ 今日因進行裝修工程，全日暫停營業。(告示)
2. 強風につき、当展望台は閉鎖しております。
→ 因強風關係，本觀景台暫停開放。(告示)
3. 会場準備中につき、しばらくお待ちください。
→ 因會場仍在準備中，請稍候片刻。(告示)
4. このセットは一人につき一つまでとさせていただきます。
→ 這份套裝每人限購一份。(「每...」的用法)

六、常見錯誤與總整理

五個理由表達的分別

句型	核心意思	語體／位置
～によって	由於... (客觀原因→結果)	書面，多用於被動句
～ものだから／もので／もの	都是因為... (辯解、解釋)	口語，もの 多置句末
～おかげだ／せいだ	是多虧...／是都怪...	句末，常用～のは～
～あまり／あまりの～に	太過...，導致極端結果	前接程度、情緒詞
～につき	因為... (也作「每...」)	告示、公文 (書面)

■ 常見錯誤

- **×** 緊張の**によって**、頭が真っ白になった。
○ **緊張のあまり**、頭が真っ白になった。
～によって 接客觀原因 (事故、變更等) 導出結果；表示「太過某種情緒、程度而導致極端結果」要用 ～あまり。
- **×** 道に迷った**ものだから**、早く案内してください。
○ **道に迷ったものだから**、遅れてしまいました。
～ものだから 是替自己解釋、辯解的理由，後句不接命令、要求；要請對方做事不能用它收尾。
- **×** 宣伝が足りない**おかげで**、注文が増えない。
○ **宣伝が足りないせいで**、注文が増えない。
～おかげで 後接好結果 (多虧)；後面是壞結果 (訂單不增) 時要用 ～せいで。
- **×** 風邪を引いた**につき**、会社を休みました。
○ **風邪を引いたもので**、会社を休みました。
～につき 接名詞且用於告示、公文等書面場合；個人口頭解釋自己缺勤的理由用～もので／～ものだから。
- **×** あまりに忙しさに、昼ご飯を忘れた。
○ **あまりの忙しさに**、昼ご飯を忘れた。
「あまりの+名詞+に」要用 あまりの (連體形) 修飾名詞；あまりに 是副詞「太...」，不直接修飾名詞。

自己輸出：用 によって・ものだから／もので・おかげだ／せいだ・あまり（の）・につき 各寫一句。可寫一則因天氣或事故造成影響的客觀敘述、一句替遲到辯解的話、一段把好結果或壞結果歸因的句子，或一張店舖告示。
